

# ほつかいどう NIE 通信

# Newspaper in Education



発行 北海道 NIE 推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎011-210-5802 FAX 011-210-5826

まだ通信事情が悪く、日本の情報が入手しづらい時代でしたので、下敷きとして詰めた数週間前の新聞でも私には宝物に思えたのです。活字や情報に飢えていたということもあるでしょう。隅から隅まで何度も読みました。

今まで読んだことのないページに新たな気づきがありました。記事を読んで日本や北海道を憂いながらも、日本という国の素晴ら

モスクワ日本人学校勤務時に、私の両親から日本の食料などを送つてもらうことがありました。子どもたちは普段口にすることができない日本のお菓子などに狂喜乱舞していましたが、私は底に敷かれていた新聞が何よりうれしかったこととを覚えています。

総会には協議会加盟の新聞社の代表ら関係者52人が出席。道教委来賓の箕浦真一さんが「児童生徒には正しい情報を取捨選択して活用するNIE活動で得られ

2015 年度 推進協総会

会には協議会加盟の新住の代表ら関係者52人が出席。道教委来賓の箕浦真一さんが「児童生徒には正情報を取り捨選択して活動するNIE活動で得られ

北海道NIE推進協議会（高辻清敏会長）は5月9日、2015年度総会を北海道新聞社特別会議室で開き、本年度の活動計画案などを承認した。地区セミナーは前年度より2カ所多い15カ所で開くことが決まった。関連記事は3面に。

る力がますます重要になつてゐる」と祝辭を寄せた。本年度の活動計画案と予算案（総額約230万円）など全議案が承認された。地区セミナーは初めてとなる



## 「誇らしげな笑顔」支え

中標津町立俵橋小校長  
中原英雄

この子しか書けないキラリと光る文が読者を引き付けるのです」と教えてくれました。

そして毎回送られてくる私と児童へ感想がとても参考になりました。この方と出会い、新聞の裏側にいる

しさを痛感させてもらいました。新聞は人とふるさとをつなぐ力を持ち、勇気づける力があることに気づかされました。

掲載される前に選考する記者から必ず電話があり、掲載したい児童の作文についての質問と確認がありました。私の予想と違った作文を選ぶことが多ないので「なぜ、この子の作文を選んだのですか?」と尋ねると「この子のこの一文が輝いているでしょう。

が新たに認定され、都道府県別で最多の12人体制で臨むことになった。また、北海道東北ブロック推進協議会事務局長・アドバイザー会議を10月3日、北海道新

日本新聞協会のNIEアドバイザーには高瀬敏樹・札幌旭丘高校教諭(54)、富樫忠浩・早来小教諭(40)、眞理堂内安之助(22)、

A photograph showing a man in a dark suit and tie standing behind a wooden podium, speaking into a microphone. He is looking towards the left. In the background, there is a wall with vertical wooden panels. Above the man, a white banner with black text reads "北海道NIE". To the left of the man, there is another person seated at a desk, also wearing a dark suit and tie, facing away from the camera. The overall setting appears to be a formal event or conference.

# 長中原英雄

記者の存在を意識するようになりました。魅力的な新聞は魅力的な人で成り立っていることを知りました。管理職になり、直接子どもに対して新聞を使った授業ができなくなりましたが、若い先生に人とふるさとをつなぐ実践をしてもらいました。

道NIE推進協総会で祝  
辞を述べる道教委の箕浦  
真人さん

A man in a dark suit and tie stands at a podium, speaking into a microphone. Behind him is a wooden wall with a sign that reads "北海道NIE".

は、PRリーフレットを作成して市町村教委や学校などへ応募を働きかけることになった。

一方、本年度の実践指定校に内定した学校は前年度より3校少ない37校。このうち新規校を代表して網走市立第二中学校の武井翔教諭が「新聞という教材をどこまで生かしていくか、自分が試されている気持ちだ。多くの先輩から知恵をもらいながら頑張っていきたい」と抱負を述べた。NIE懇談会では、士別市立士別中学校の菊池安吉校長が「NIE事始め」のテーマで講話した。

## NIEセミナー 鉄路からスタート

本年度のNIE地区セミナー（北海道NIE推進協議会主催）が5月26日、鉄路を皮切りに始まった。本年度の地区セミナーは初開催の留萌、後志管内を含め、前年度より2カ所多い全道15カ所で開かれる。

### 児童「新聞大作戦」まとめる

鉄路セミナーは鉄路市立新陽小学校（三枝行憲校長）で開かれ、鉄路管内の教師を中心に45人が参加した。公開授業では、同校の6年1組担任の北岡知樹教諭（43）が「新聞をもっと広めていこう」をテーマに、校内の新聞掲示板を有効に

活用する方法を子どもたちに考えさせた。

6年生はNIEの一環として、新聞各紙の関心のある記事を切り抜いて掲示板に張り出し、毎週1回、更新している。ただ、他の学年児童が掲示板を見る機会は減ってきており、付箋

で、「児童が何をという意識を持つて、自主的に取り組んでくれた。これから、作戦をどう実行していくか見ものだ」と総括した。

実践発表の部では、北海道教育大学鉄路校の藤本将一は以下の要領で行う。

▽6月26日、北見市立縁小。丸山裕之教諭による公開授業▽7月16日、稚内

鉄路市立新陽小での公開授業は、未定。野上泰宏NIEアドバイザーによる新聞活動講座



## お知らせ

### 夏休み親子新聞教室

北海道NIE推進協議会は夏休み親子新聞教室を8月6日午前10時から、札幌市中央区大通西3の北海道新聞社1階、D.O.BOXで開く。小学生対象で、定員は保護者と合わせて25組。児童と保護者の名前、小学校名・学年、郵便番号、住所、電話番号を明記し、

はがきかファックス（011-210-5826）で道新報業協議会へ。7月23日締め切り。

## NIE実践奮闘記

毎日の積み重ねこそが大きな力になる。

「先生、世の中って小さな出来事がたくさん起きているのですね。そして、見えないところでたくさんの人が世界を支えているのですね」

小学5年生の子どもが述べた言葉です。前年度私の学級では、週に一度新聞スピーチを行つていました。気に入る新聞記事を切り抜き、それについて自分の考え方や感想を発表するという内容でした。

子どもたちの取り組みの様子を見ていると、サツカレーが好きな子はコンサドーレ札幌の活躍を、バスケッ

トボールで全国を目指している子どもは高校総体の話題を、また家族で話題になつた飲酒運転の記事など、1面で大きく取り上げられることを中心

間をにぎわす出来事に関する実感があります。

しかし、前述の発言をした女兒のスクランブルは他の子と少し違つていました。彼女のスクランブルにはプロ野球選手

### 人の営み 教え子の感性に学ぶ

の活躍や、世間を騒がせた事件についての記事はほとんどありません。あるのは、小さな町で集いの場をつくるために尽力する錢湯の方のお話。観光客を呼び込むと、小さな花の手入れを続ける

かつたのです。取り組みの結果、今までニュースに全く興味がなかつた子も、友達と交流する中で、少しづつ世

話題：小さいけれども、温かい記事がスクランブルは努力を怠らない、真面目でひたむきな子です。それでいて人の良さを見つけることです。

記事を切り抜くという作業が、人の営みへ思いをはせることにつながるとが得意な子でした。だからこそ世間の事象にも温かい目を持つこと

### 7月30、31日に秋田で全国大会

「『問い合わせ』を育てるNIE」思考を深め、発信する子どもたち」を大会スローガンに第20回NIE全国大会秋田大会（日本新聞協会など主催）が7月30、31日の2日間、秋田市内の県民会館をメイン会場に開かれる。初日の30日は、教育評論家の尾木直樹・法政大教授による記念講演のほか、係者によるパネルディスカッションを行う。

最終日の31日は、秋田市にぎわい交流館などで分科会を実施、公開授業や実践発表を行うことになつてい

に書いて貼られる記事の感想も以前ほど多くない。

人准教授が「新聞を活用する教育中

学校社会科の授業づくり、鉄路工業高校の稻津由紀子教諭が「書く能力」の向上

を目指す授業実践）『みらい君の広場』への投稿を通して』をテーマに報告した。

当面のNIE地区セミナーは以下の要領で行う。

▽6月26日、北見市立縁小。丸山裕之教諭による公開授業▽7月16日、稚内

**新聞読んで感想送ろう**

日本新聞協会は6回目を迎える「いつしょに読もう！新聞コンクール」の作品を募集している。対象は小中高生と高等専門学校生。学校など団体による応募も受け付けられる。昨年9月13日から今年9月11日までの新聞から興味を持った記事を切り抜き、記事を選んだ理由と感想や意見、家族や友達の意見、話し合った後の自身の意見、提言を書いて送る。

NIEホームページ  
(*h t t p : // n i e . j p /*) からダウンロードできる。締め切りは9月11日(必着)。入賞者は11月26日、新聞紙上、NIEホームページで発表する。優秀作には記念品などを贈る。

月一例会で、新規に登場する教員の紹介や、これまでの経験を語るなどして、教員間のコミュニケーションを活性化させる企画を行なっている。この企画は、これまでの経験を語るところが、主な目的であるが、その他の目的としては、教員間のコミュニケーションを活性化させること、教員の自己理解を深めること、教員の自己成長を促進すること、教員の自己実現を図ることなどがあげられる。



道NIE懇談会

触れる機会の提供を

北海道NIE推進協議会の総会に続くNIE懇談会で講話した土別中校長の菊池安吉さん（元NIEアドバイザー）は、「情報の網羅性があり、社会的な関心を育むのに最高の教材」と、新聞の有用性をあらためてアピールした。

（1）面に開運記事

学生スクレップコレクションの審査委員長などを通じて後進の育成に当たつてゐる。また、日本新聞協会発行のガイドブック「新聞活用の工夫提案」中学校編(著者不明)によると、

ニュースの流れを確実につかみ取れることができるので、この3点の特長を紹介し、「活字媒体であるため教師の工夫によって授業でいかようにも使うことが可能」と指摘した。

その上で、面白い記事をお昼の校内放送で紹介する「きょうの新聞から」といった活動を紹介し、「児童生徒がどこでも、いつでも、だれでも新聞の楽しさに触れる機会を考え、提供していくほしい」とまとめた。

## 新聞夜塾は 全8回開講

**写真右**の会長選出を承認した。

くむNIE」とし、新聞夜塾については計8回開講する。主な事業は、夏季研修会や北海道NIE研究大会、冬季研修会などで、予算額は約19万円。

A photograph of two middle-aged men in dark suits and ties standing side-by-side against a plain, light-colored wall. The man on the left has his hands clasped in front of him, while the man on the right has his hands at his sides. They are both looking directly at the camera.

に新聞活用を少しずつでも浸透させ、道内各校でNIE活動が広がり定着するようにならう」と述べた。

アドバイザーに高瀬、富樫両教諭



新たに日本新聞協会のNIEアドバイザーに認定された札幌市立旭丘高校の高瀬敏樹教諭(54)は、「真左」の専門は「情報報」。情報通信技術術(ＩＣＴ)に精通しており、新聞や記事データを活用したメディアリテラシー教育などを実践している。「これまでの経

もう一人の胆振管内安平町立早来小学校の富樫忠浩教諭（40）は、『鍛える国語教室』研究会のメンバーだ。基礎学力や表現力を目指す教材として新聞を活用している。「新聞を通じて子どもたちの思考力、判断力などの育成に努めたい」と決意を話した。

第26回研究大会は11月4日、芽室西小（芽室町）で開催する。第20回全十勝コンクール、第14回帯広・十勝セミナーのほか、実践力を高めるための月例学習会の実施も決めた。

また、全国新聞教育研究大会（京都市）とNIE全国大会（秋田県）への会員派遣を確認した。

役員改選では会長に小沢一記氏（鹿追中校長）、事務局長に阿部英一氏（豊頃小教頭）をそれぞれ選出し

北海道NIE推進協議会が毎年  
発行している実践報告書「教育に新  
聞を」の2014年度版が完成した  
!!写真!!。

NIE実践指定校として、一定期間新聞を無料提供された道内40校の担当教諭による新聞活用例などを掲載している。紙面から気に入った人物写真を選び、その人物の気持ちを想像して手作りのワークシートに書き込ませる、大武敦史・市立富良野小教諭が取り組んだ1年生対象のNIE活動も紹介されている。

A4判170ページで、教師向けに無料配布している。同推進協議会事務局（北海道新聞社内☎011・210・5802）に問い合わせるとよい。



14年度 實踐報告書を発行

に新聞活用を少しずつでも浸透させ、道内各校でNIE活動が広がり定着するようにならう」と述べた。



<略歴>たけうち・ひろゆき 1957年7月、宮城県石巻市生まれ。2012年11月から石巻日日新聞社が開設した「石巻ニュース」館長を務めている。施設名はニュースと、博物館を意味する「ミュゼ」(仏語)を合わせた造語で、手書きの壁新聞や震災写真などを展示。これまで修学旅行生を中心に2万5千人余りが入館している。

## 編集後記

○…文学学者ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)は、旧制五高(現熊本大)で同僚だった秋月悌次郎に対し「神のごとき人」と最大級の賛辞を贈っている。旧会津藩校「日新館」きっての秀才とうたわれた。日本の近世と近代の分水嶺とされる戊辰戦争では、会津鶴ヶ城(福島県会津若松市)の孤塹を守るリーダーの一人であり、その後の降伏式全般も取り仕切った人物である。

○…国破れて孤城雀鴉(じやくあ)乱る、で始まる「北越潜行の詩」は、彼が残した代表的な漢詩の一つだ。危険を顧みず猪苗代湖畔の幽閑先を脱走。新政府参謀で、旧知の間柄でもあった奥平謙輔と新潟で会い、後事を託したのが白虎隊の生き残り山川健次郎(後の東大総長)らだった。詩は、その帰る道すがらに作つたとされている。

○…優れた教育者でもあった悌次郎は「故国」の再興を人材育成にかけたのだと思う。もとより國も組織も、物や機械ではなく「人」によって動いているのだ。道内には工夫を凝らしながらNIEを実践している教師が少なからずおられるが、彼らに悌次郎の面影を重ね、エールを送りたい気分になることがある。「どうか新聞を使って有為な人材を育てください」と。(葛)

石巻日日新聞の熊谷利勝記者は東松島市議会を取材中、東日本大震災(2011年3月11日)と遭遇した。カメラを携え情報収集に駆け回っている中で津波に巻き込まれた。何度も海水を飲みながらも横倒しの状態だった船に避難して一夜を明かし、12日朝、捜索のペリに救出され、文字通り九死に一生を得た。同僚が無事を確認したのは震災5日後の16日。熊谷記者が津波の第1波直後に撮影した写真は「6枚の壁新聞」(角川SC新書)で掲載された。

「カメラを手放さなかったのは、撮影データを守るために自分の意地だった」と回想している。

(構成・葛西信雄)

私は10年ほど前に家内を亡くし、80歳すぎの両親と仙台市内の大学に車で通学している長男の4人暮らしでした。はやる思いを抑え

て自宅へ向かったのは、1回目の壁新聞発行を終えた3月12日。がれきの山を越えてたどり着いた時には、日もとっぷりと暮れてしましました。家はかろうじて2階部

## 託す想い「未来の笑顔」

石巻日日新聞社常務

て、結構早い段階で自衛隊員がゴムボートによる救出活動していたそうです。今でも「長男が早く帰宅している」とぞうとする

きたのですが、編集作業のたび「悔しい!」という思いにかられたものです。手書きという伝達手段では、情報量と発行数におのずと限界があるのです。せっかく撮った写真だって使えないんですね。一方で「地域の新聞社が地域のことを

行方不明の方々などを含めた石巻市の犠牲者は約4千人にのぼります。うちの新聞は本社のある石巻市と、東北電力の原子力発電所が立地する東隣の女川町、西隣の東松島市の3市町をカバーしていますが、発行部数は震災前の半分近く7500部にまで減りました。

真の復興は彼らが主役になります。前を向いて一歩

け出でて、私たちを守ってくれたのかかもしれません。それでも全く反応はありませんでした。

震災当日、講義が休講になつた長男がお昼ごろに帰宅していました。津波で床上1・5㍍まで浸水しますが、長男が自宅療養中の祖父母を2階まで背負つて一時避難させ、すぐに屋根に出て大声で救助を要請します。すでにヘリが飛んでいます。車はもちろん、携帯電話も使えません。ライフルが絶たれ、飲食もまばならない中で部員たちは必死に情報をかき集めて

伝えないでどうする」という、ある種の責任感もあります。突き詰めると、この文言が石巻日日新聞の道しりであります。そこで例えれば「全国から寄せられた救援物資は何日からどこで配布する」とか、「FMラジオで安否情報の放送を始めるとか、「電気の復旧が1

万戸を超えた」とか。被災者の求めるそんな情報を壁新聞に書き込みました。记者は小中学生で、部員たちが恐れているのです。そんな理由もあって仙台のNPO法人と協力し、12年3月から季刊の「石巻日日」を発行しています。記者は小中学生で、部員たちは経営的に楽観できる状況ではありませんが、われわれは名刺に「愛する地域を未来の笑顔につなげま命だと思います。

# 新聞ってステキ!

武内 宏之さん 6

(下)